

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年1月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691100186
法人名	社会福祉法人権原寿恵会
事業所名	グループホーム有馬館
所在地	鹿児島県南さつま市加世田地頭所1600番地 (電話) 0993-78-4678
自己評価作成日	令和4年12月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感を体験できる行事を取り入れ、また料理やお菓子作り等で食の楽しさ満足感を提供しています。毎日の運動としてレク用具をふんだんに使用して楽しみながら体を動かすことのできるように工夫しています。認知症介護実践者研修、内部外部研修等へ年3回以上全員が参加し認知症ケアの質の向上に努めています。ご家族との交流では毎月の様子の写真とお便りを一緒に送付しています。「状態がよくわかり安心して、いろいろな催し物に参加ができ表情もいいですね、ありがとうございます」との言葉をいただいています。毎朝、職員全員で理念の唱和を行いお一人おひとりがその人らしく暮らすことを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道270号線から中に入った静かな地域に位置しており、近くには市役所・警察署・ホームセンター等の公共機関や商業施設があり、日常の買い物も気軽にできる環境であり、利便性に優れている。母体病院の近くの建物の2階がホームになっており、法人内にグループホームが3つ、認知症デイサービス、有料老人ホームがあり、研修会や委員会活動・避難訓練等は合同で実施されている。

管理者は職員が働きやすい職場環境作りに努め、研修等により職員のスキルアップを図り、食事・ケア・レクレーションのホーム内委員会活動に加えて、法人でも研修・感染症・人材育成等の組織を立ち上げその活動は進んでおり、充実した日々のケアが提供できるように職員は一体となって業務に取り組んでいる。また、利用者の居宅に近い環境作りを重視し、その人らしく安心して暮らせるための支援を目指す理念を掲げ、化粧療法・卓上物の配置の工夫等、利用者が楽しみを感じることで気持ちが前を向くような支援に努めている。

現在はコロナ禍のために地域との交流や外出支援等が難しくなっているが、何とか実施できるように検討して工夫を重ねながら取り組んでいる。外出自粛に伴いレクレーション等の充実を図り、大型スクリーンで1年間を振り返る映写会を実施したところ、利用者の喜ぶ様子が見られ、身体的・精神的な機能維持のためにも自立支援を目指した支援を継続していきたいとの思いを一層深くした。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設して4年目を迎える。入居者の暮らしの質を第一に考えた理念を毎朝唱和し実践に努力している。	利用者が自分らしく暮らせる支援を目指して理念を掲げ、事務所と玄関に掲示している。職員は毎朝理念を唱和し、具体的な行動目標を月の目標とすることで認知症に対する理解・意識付けを図り、利用者の意思決定を最優先に考えたケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で地域との交流の機会は多くはないが季節ごとの自然散策ドライブで地域の方との交流が実現できている。運営推進会議終了後に面会を行ったり出張美容等も楽しみの一つになっている。	自治会に加入している。コロナ禍のため対人交流は自粛しているが、毎月の訪問美容・慰問の踊り・七草の晴れ着の子供とのガラス越しでの交流・有料老人ホーム入居者との交流等は行っている。市報も各利用者に配布され、地域や出身地の話題で盛り上がり、楽しみのひとつとなっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学の希望の方へは住居空間への見学はご遠慮いただき一階の会議室にて施設の様子等ご説明している。またお電話での相談なども随時受付ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で本年度は3回中止となった。その際は文書で運営状況を各委員へ報告している。自粛期間はまた施設運営に対してご意見を文書でいただき、反映させている。	コロナの状況に合わせて会議開催や書類での状況報告としているが、できるだけ定期的に開催できるように努めている。会議には家族・自治会長・民生委員・市職員等が出席し、事業所の運営状況・ヒヤリハット・活動報告等が行われ、活発に意見交換がなされてサービスの向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の中でも市町村担当者の意見を頂いたり、訪問、電話などでご意見や情報交換等を積極的におこなっている。</p>	<p>市職員とは運営推進会議をはじめ、窓口や電話等で助言・意見等をもらったり、生活保護受給者に対する担当者の訪問など、日頃から協力関係を築いている。グループホーム協議会のリモート研修や他の研修会にも積極的に参加して意見・情報交換に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の施設内研修を年に2回実施している。また外部研修でも権利擁護、身体拘束の研修に参加し身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。</p>	<p>内部研修や法人合同研修に参加して身体拘束に対する職員の認識を深め、「身体拘束等適正化のための指針」に基づいて自由な暮らしを支援している。身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催し、休憩室には「不適切なケア」を掲示して、「セルフチェックリスト」や年2回面談等による振り返りを行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>昨年外部評価で職員間で上げられた言葉による虐待、スピーチロック等を意識してケアにあたっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等で制度の理解に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には書面等で詳しく説明しご家族ご利用様が納得され不安なく契約を締結できている。またいつでも疑問点など受付て安心して入居開始ができるように連絡をおこなっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月の状態報告や活動写真をお送りし運営についてご理解ご協力をいただいている。また家族アンケートも実施し改善点等を運営に活かしている。</p>	<p>利用者の意見・要望は日常のケアの中で把握に努め、家族の意見・要望は面会・電話等で把握している。家族の面会は多く、現在ガラス越しで予約制となっているが、毎月ホームから送付される生活状況報告書と写真により利用者の様子がわかり、家族からの要望や情報等を把握できる手段となっている。職員は、利用者の言葉の端々から思いを汲み取るように努め、介護計画に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議内や日々のカンファレンス、年二回の個人面談をおこない職員の意見を柔軟に取り入れている。また職員が話しやすい雰囲気作りにも努力している。</p>	<p>管理者は、日頃から職員が気軽に話せる雰囲気作りに努めている。人事考課のための面談を年2回実施し、職員は6か月で達成可能な目標を設定してシートを作成し、管理者は途中でその達成度を確認している。希望休や研修参加にも可能な限り対応してスキルアップを図り、法人のバックアップ体制も得ながら、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の自己評価、目標設定シートの作成などでそれぞれが目標達成に向けて努力し、それが人事評価に反映している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の機会を設け、本年度も認知症介護実践者研修に参加しそれぞれのスキルアップにつながった。本年度は3名の職員が終了した。また介護福祉士資格合格者1名となり、当施設では現在9名中7名が介護福祉士資格取得者となった。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県GH協議会、介護サービス事業所研修会、介護支援専門員協議会等に所属しつながりを大切にしている。また情報収集を行い施設サービスの質の向上につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族、ケアマネジャーより情報をいただいている。またどのように暮らしたいのか好み趣味や要望など詳しく聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やお便り、毎月の写真送付などで家族との関係が途切れなないように交流している。ご家族や本人からの要望等にはその都度柔軟に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	慣れない環境の中でできる限り今までの生活習慣を大切にしながら必要としている支援はなにか常に職員間で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様視点でそばに寄り添うことを大切に考えている。人生の先輩として敬い、時にアドバイスを頂けるような環境設定をおこない一緒に考えながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性を大切に考えられる限りの支援を行っている。コロナ禍であるが予防策をしっかりとおこないながら外出面会を継続している。情報をこまめにお伝えしご家族と一緒に支援させていただけるよう関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙、面会で関係性が途切れることがないように努めている。	入居時に関係機関や家族等からの馴染みに関する情報をもらい、職員間で共有している。電話・ガラス越しでの面会・手紙の取り次ぎ・墓参り等の支援を行い、絵葉書フォルダーを大事に持っている利用者もいる。外出もできるだけ実施して、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人らしく自己決定できるような安心できる利用者との関係性を大切に考えている。個々に配慮した関係作りを考慮し席の配置も対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族との情報交換をおこない相談等にも対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の自己決定を基本にしている。介護度の高い利用者の場合もご家族の意向を取り入れて本人本位にケアを提供している。	利用者の思いや意向は日頃のケアの中で把握し、家族からは入居時や面会時に情報をもらっている。行事や写真撮影時に併せて化粧療法を開始し、楽しみを感じることで気持ちが前を向くような支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者、本人への聞き取りにより生活歴の把握に努めている。それにより多角的にその方をとらえるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間でアセスメントした内容を記録に残し全員が把握できている。さらに新たに気づいた能力等を生活の中で活かせるようにと考え工夫している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々生活の中で又は職員会議や朝礼時間などでケアの変更を柔軟におこないケアプランへ取り入れている。	利用者の言葉や思いを大事にして、入居開始後1ヶ月間は短期目標期間を1ヶ月とし、担当職員を中心に3ヶ月毎にモニタリングを実施して目標を見直し、本人が望む暮らしの実現に向けた介護計画を作成している。入院等で利用者の状態変化があった場合には、随時計画を見直して修正し、利用者の現状に合わせた計画を作成するように努めている。日々の介護記録はタブレットで管理され、職員間での共有に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテへの入力を行うことで全職員が情報を共有している。さらに過去からの経緯を比較することでサービス内容の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしく生活できるためにも個別のニーズを大切に引き上げ、できる限りの支援を行っている。当施設の特徴となるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではあるが感染予防をしっかりとこないながら地域の中に出向いて楽しむことができている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療や週一回の訪問看護、さらにかかりつけの眼科や皮膚科、歯科、脳外科等への受診支援を継続できている。	利用者の全員が母体病院をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療や週1回の看護師による健康チェックの他に、歯科の訪問診療や家族同伴での専門科の受診など、職員・家族間で情報共有しながら適切な受診ができるように支援している。夜間は看護師を通して医師から指示をもらい、オンコール体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	24時間いつでも訪問看護師と連携強化できており適切な受診支援を継続できている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	訪問診療での情報提供を継続しているため入退院時の連携もスムーズである。また病院関係者との関係も的確な情報のやり取りができ入居者も施設職員も安心できている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	利用契約時に終末期について説明確認いただいている。治療が必要になった場合は母体施設である有馬病院への入院となる。	入居時に「医療連携体制及び重度化対応の指針」について説明しており、ホームでの看取りは実施していない。家族に対する意思確認は口頭で行い、医療行為が必要になった場合には入院する方向で支援がなされることについて了承を得ている。ホームの方針について、家族が理解して納得できるような説明方法について検討していきたい。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	年に2回の救急救命法実技研修を全職員が受けている。毎回新鮮な気持ちで受講し緊張感をもって備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域との協力体制については今後の課題である。BCPを作成し災害に備えている。当施設は2階であるため非常時の避難階段移動ができない利用者の対応を考えている。</p>	<p>年2回の夜間想定を含む火災対応の避難訓練を実施し、年1回は消防署が立ち会い、自主訓練も複数回実施している。「自然災害発生時における業務継続計画」を作成し、自動通報装置の設置や法人内一斉メール対応もある。訓練に地域住民の参加は得られないが、自治会長や民生委員には連絡しており、今後は文書依頼により参加に繋げていきたいと考えている。備蓄は水・食品等をホームで3日分保管し、懐中電灯・ラジオ・カセットコンロも準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月接遇目標を掲げて人格尊重を目指している。接遇研修なども積極的に参加ができています。	年度初めに法人で接遇マナー研修、法人・ホームで権利擁護研修を実施している。利用者には敬語で会話し、不適切な言葉を使わないよう十分に気を付けてケアに臨んでいる。特にトイレ誘導や入浴介助時の羞恥心への配慮や声掛けの方法について検討し、利用者の気持ちを大切にした支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人が自己決定できるような声かけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での生活の流れがある中でどうしても全てその方の希望する時間設定が困難である。しかしそれ以外では好きな時間に休んだり居室でゆっくりと読書したりお仏壇でお経を上げたりとその人らしい時間が過ごせるように支援ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	意思決定を大切にしてその人らしい服装身だしなみができている。整髪料、化粧水、洗顔料等個別でお好きなものをつけていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒にお菓子作りや料理などを行う機会を作っている。お好きなエプロンを付けて包丁で刻んだり炒めたりとその方ができる料理工程を楽しむことができている。	3食全てをホームで手作りし、利用者は下ごしらえ・食材切り・盛り付け・米洗い等を行い、「お料理体験日」では調理から全てを利用者だけで行っている。食事前には口腔体操を、食後には口腔ケアを実施している。行事食・おやつ作り・そうめん流し等を行い、食べることが楽しみに繋がるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事量、味付け、食事形態、嗜好品など提供できている。水分摂取量が少ない方へお好きな飲み物等で必要量が摂れるような工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行っている。その方の状態に合わせて見守り一部介助全介助を提供している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを考えて声かけしたりその方に合った排泄用品を提供している。	日中はトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用して利用者毎に排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もあるが、個々の状態に合わせた排泄用品を使用しながら自尊心やプライバシーにも配慮して、排泄の自立を目指した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、食物繊維の多い食材などを積極的に提供している。また毎日の運動や散歩などで便秘予防を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を提供している。その方の心身状態に合わせて入浴の順番を設定している。入浴拒否のある方へは無理しせず、曜日を交えるなど対応している。	週3回、午後からの入浴を基本としているが、利用者の希望や身体状況等に応じて柔軟に対応している。浴室入口には暖簾が掛けられ、入浴剤は使用せず、ゆず湯等にも対応し、シャンプー・石鹸等は共用であるが、希望の物を使用することもできる。入浴後の水分補給はコーヒー・紅茶・カルピス等、好みの物を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の就寝時間に合わせて対応している。見たいテレビがあるときなど遅くまで見ることも自由に支援している。(毎晩ではないため)また日中でもゆっくりしたい方は好きな時間に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルや連絡ノートを活用し薬の目的、用法、用量は理解確認ができている。症状の変化時には医師看護師へ速やかに連絡できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人に合った役割を無理なく設定し継続できている。調理作業、洗濯物たたみ、掃除の手伝い等。また電話や手紙のやりとり新聞読みお仏壇へ毎日お茶を上げるなど継続できている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿うことはできていないが近隣への散歩、ミカン狩り、コスモスドライブ、墓参り、一日遠足等、感染予防を考慮した地域への外出支援が継続できている。	コロナ禍のため自粛している外出も多いが、菜の花・あじさい・コスモス・彼岸花等のドライブ花見、近くの桜並木への散歩等は実施している。ホームは建物の2階にあるため戸外への散歩等は難しく、室内でレクレーション・映画鑑賞・カラオケ・紙芝居・パズル・計算・絵合わせ・筋トレ等を行い、ホーム内で工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	所持金は職員が金庫管理している。必要なものがあれば職員が代行購入している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	希望に沿って電話や手紙でやりとりしている。携帯電話所有の方もおり自由に使用している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	清潔な明るい空間で適切な室温を保っている。また季節感を感じられる飾り物、植物等で気持ちの安定を図っている。居室なども好みの室内灯の明るさで調整している。	建物の2階がホームになっており、廊下には利用者と職員の1年の抱負・毎月の予定・季節の写真等が掲示されている。利用者は明るいフロアのソファに座って、自由に居心地よく過ごしている。空気清浄機3台が設置され、定時に換気も行われて、適切な空調管理がなされている。キッチンからは調理の音や匂いがして、利用者は家庭的な雰囲気を感じながらゆったりとくつろいで過ごせるように支援している。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ひとり一人が心地よく過ごせるようにソファーや食堂テーブルで好きな場所で思い思いに自由にくつろいでいる。気の合う方との席換えも随時おこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスや人形、時計、椅子、仏壇、鉢植え等を配置し居心地よく過ごせるように配慮している。</p>	<p>居室にはエアコン・電動ベッド・チェストが備えられ、腰高窓で室内は明るく、壁に設置されたホワイトボードには利用者の作品や写真が飾られている。居室の入口には名前が貼ってある。利用者は時計・人形・カレンダー・仏壇・植物等、馴染みの物を自由に持ち込み、居心地よく過ごせるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に移動ができるよう動線上にスペースを確保できている。浴室ののれん、トイレの案内表示等で自分の意志で行先まで行けるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない